



DataScientist Society

# データサイエンティストをめぐる 環境の違い 2024年版

〈一般ビジネスパーソン調査の国際比較〉

2024年9月30日

一般社団法人 データサイエンティスト協会

調査・研究委員会

# 調査概要（4カ国比較調査）

	日本	アメリカ／インド／ドイツ
調査対象	日本国内在住の就労者（正社員or嘱託・契約・派遣社員、パート・バイトを除く）	各国在住の就労者（正社員or嘱託・契約・派遣社員、パート・バイトを除く）
対象年齢	20～69歳	20～69歳
割当	性・年代で均等割り付け	性・年代で均等割り付け
年代構成	20代：20% 30代：20% 40代：20% 50代：20% 60代：20% 男女1:1	同左
回答者数	2,000人	1,000人
実施日	2024年6月12日～17日	2024年6月12日～24日

注：本調査資料の百分率表示は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がございます。

# 目次

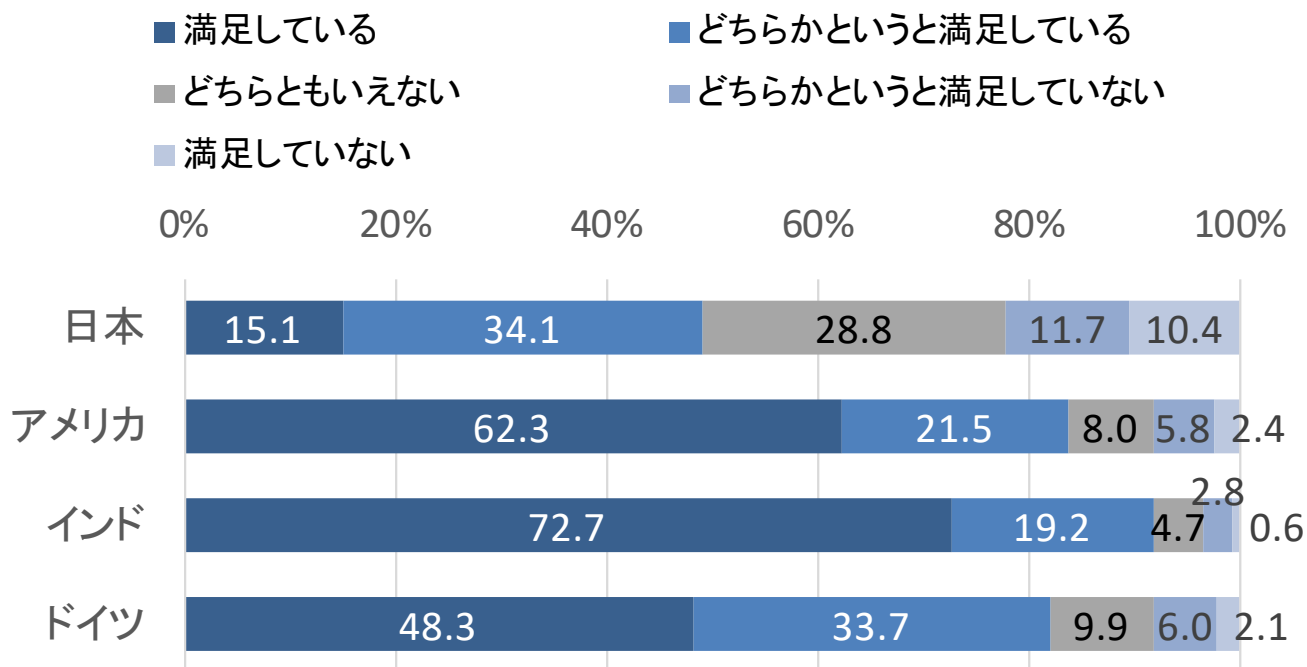
- 1 一般ビジネスパーソンの業務の満足度・将来性
- 2 データサイエンティストに対する認知・興味・イメージ
- 3 企業におけるデータサイエンティストの位置づけ
- 4 職場・業務におけるAIの導入
- 5 データサイエンス関連の資格・スキル
- 6 まとめ

# 一般ビジネスパーソンの 業務の満足度・将来性

# 一般ビジネスパーソン の 業務満足度

Q.あなたは、現在の業務に満足していますか。

## 就労者の現在の業務に対する満足度は 日本が49.2%で、他国と比べて圧倒的に低い

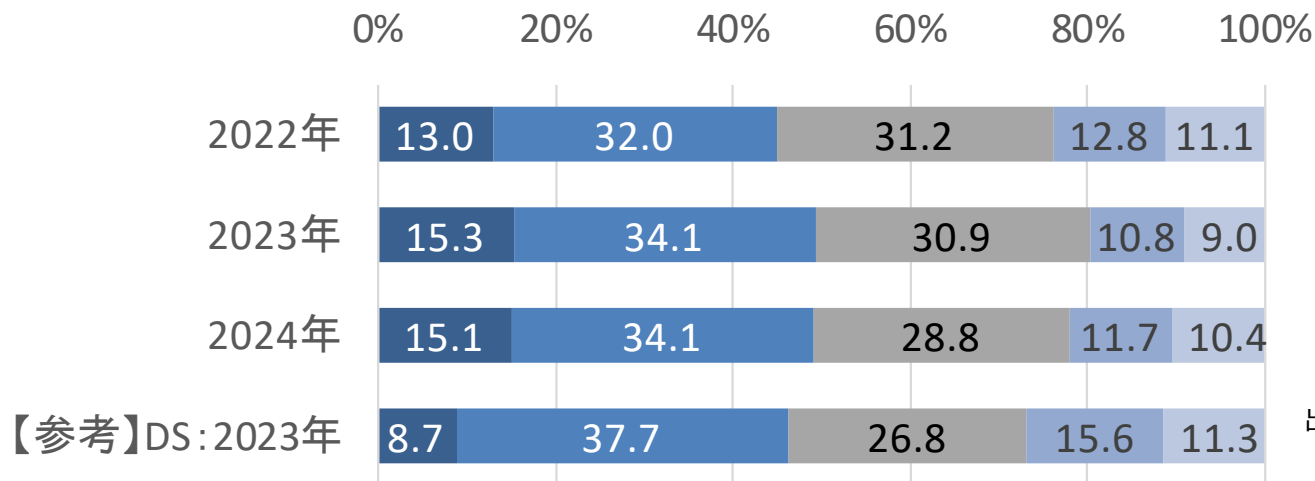


Q.あなたは、現在の業務に満足していますか。

## 日本における業務満足度は低水準で安定、 データサイエンティストの業務満足度も同水準

### 業務満足度（日本）

- 満足している
- どちらかという満足している
- どちらともいえない
- どちらかという満足していない
- 満足していない

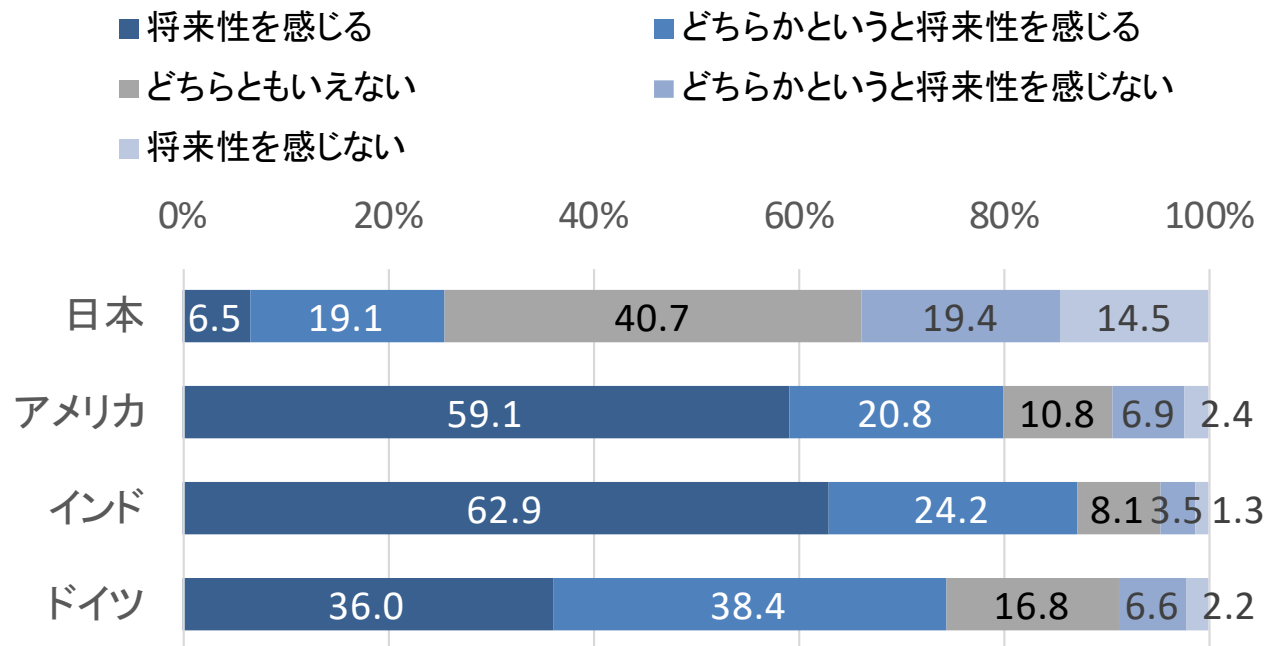


出所) 一般(個人)会員  
アンケート  
2023年11月実施

# 一般ビジネスパーソン of 業務将来性

Q.あなたは、現在の業務に「将来性」を感じますか。

**就労者が現在の業務に将来性を感じている割合は  
日本：25.6%、アメリカ：79.9%、インド：87.1%**

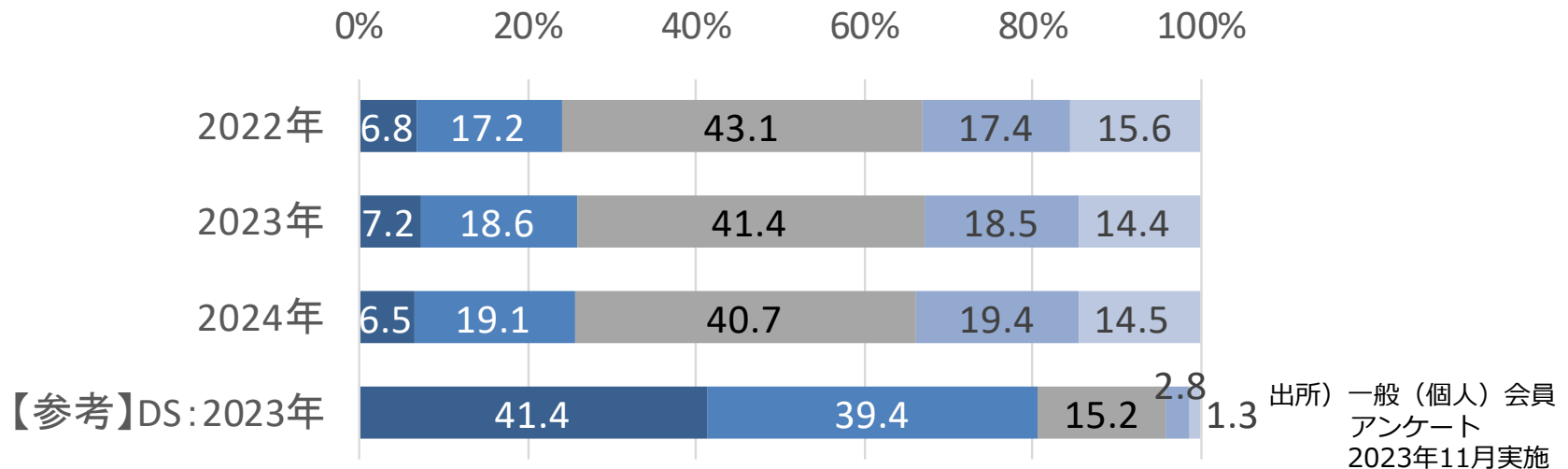


Q.あなたは、現在の業務に「将来性」を感じますか。

## 日本における業務将来性も低水準で推移、 データサイエンティストの業務将来性は非常に高い

### 業務将来性（日本）

- 将来性を感じる
- どちらかというと感じる
- どちらともいえない
- どちらかというと感じない
- 将来性を感じない





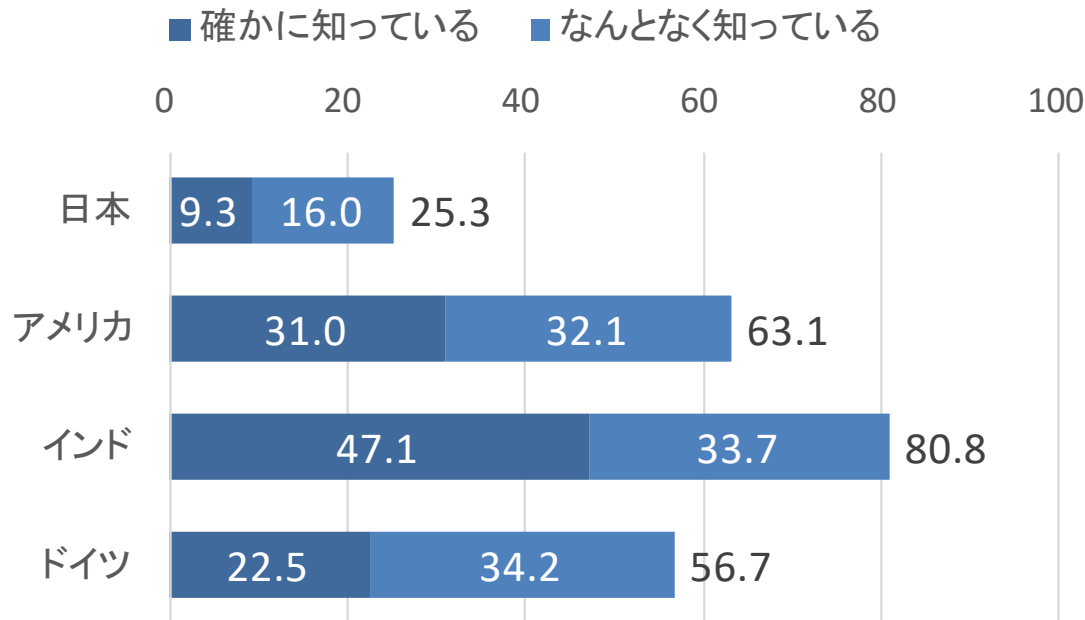
# データサイエンティストに対する 認知・興味・イメージ

# データサイエンティストの認知率

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）を知っていますか。

**就労者のデータサイエンティストの認知率は、日本：25.3%、  
アメリカ：63.1%、インド：80.8%、ドイツ：56.7%、  
(なんとなく知ってる以上)**

## データサイエンティストの認知率

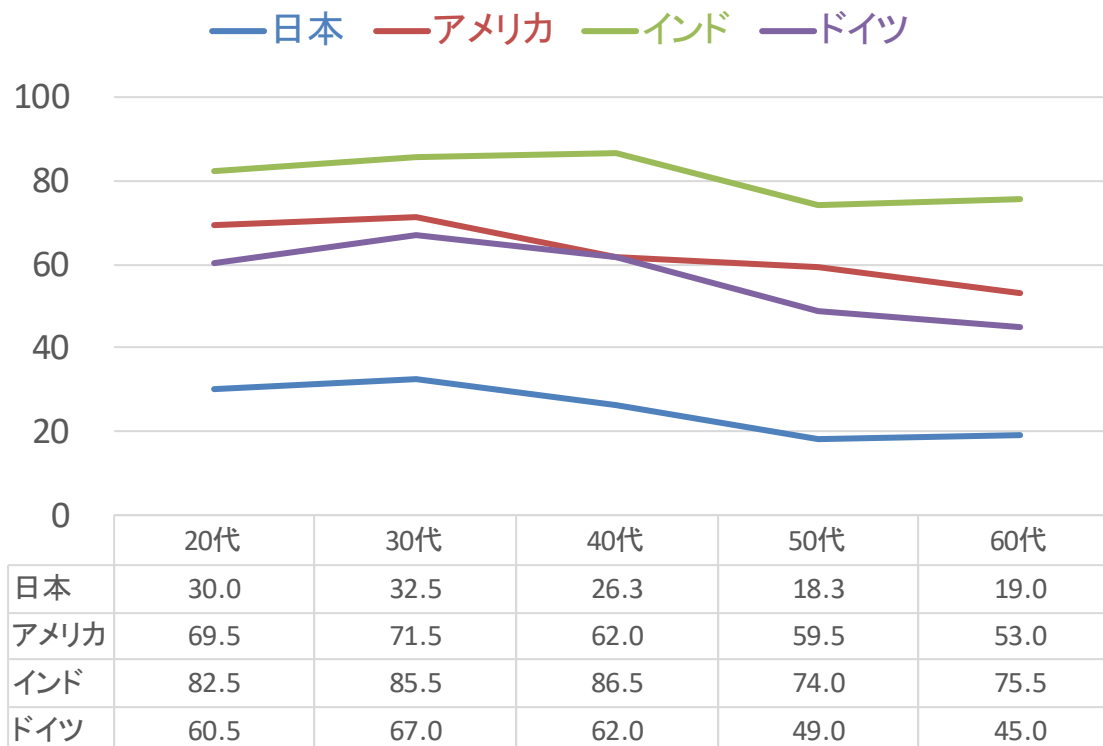


# データサイエンティストの認知率（年代別）

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）を知っていますか。

**各国ともに、20代・30代の認知率が高い、  
インドでは40代以上でも認知率が高いことが特徴的**

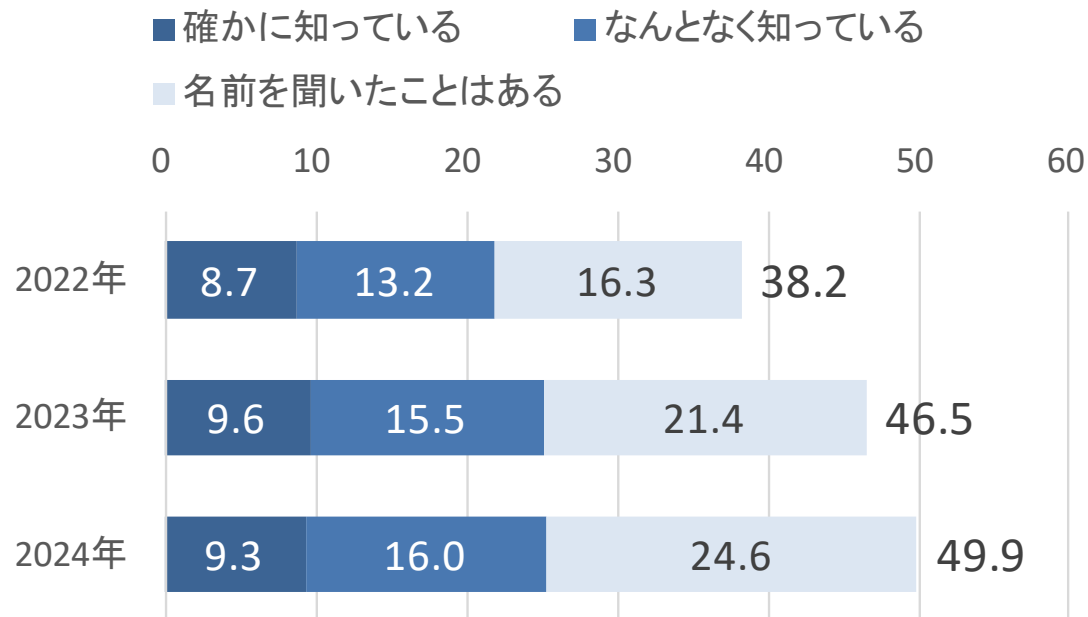
データサイエンティストの認知率：なんとなく知っている以上



Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）を知っていますか。

## 日本におけるデータサイエンティストの認知率は、徐々に拡大しているが「名前を聞いたことはある」程度で止まる

### データサイエンティストの認知の状況：日本（時系列）



注)2022年は性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

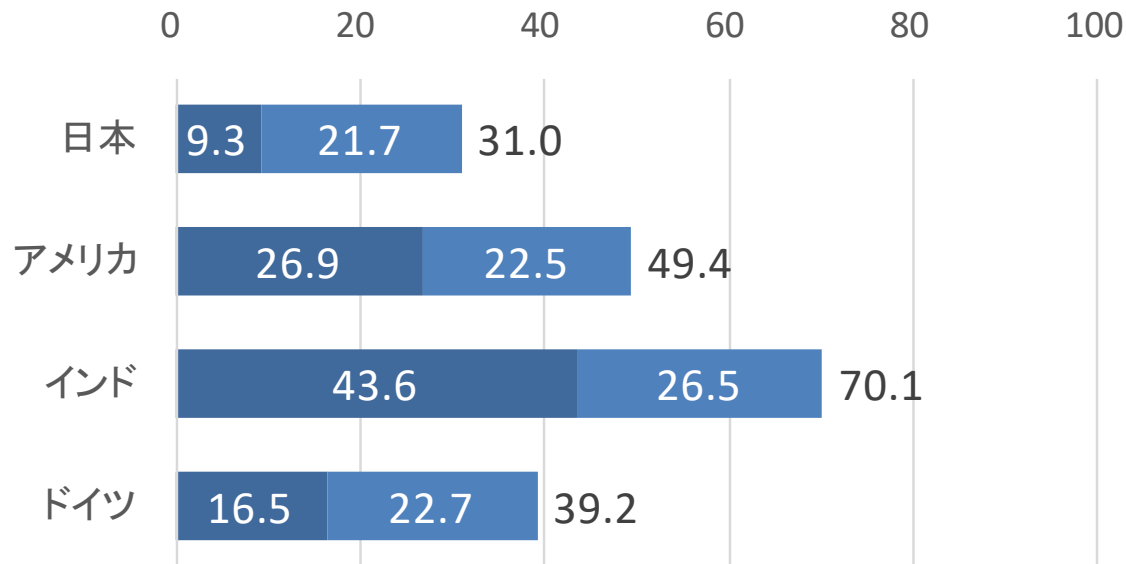
# データサイエンティストへの興味

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に就くことに、興味がありますか。

**DSという職種に就くことに興味を持つ割合（認知者あたり）は  
日本：31.0%で、ドイツ：39.2%に近いが、  
アメリカ：49.4%、インド：70.1%は高水準**

## データサイエンティストの将来性

■興味がある ■どちらかといえば興味がある



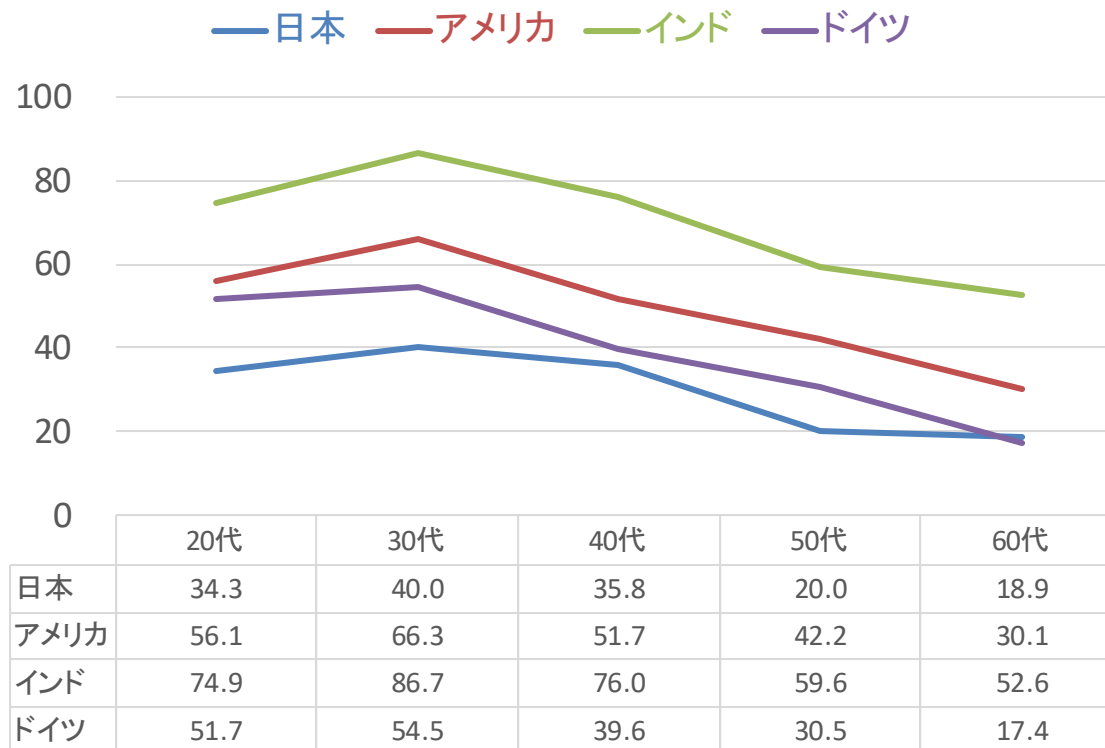
\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

# データサイエンティストへの興味（年代別）

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に就くことに、興味がありますか。

## 各国とも30代をピークに若年層でDSに興味を持つ割合が多い

データサイエンティストへの興味：どちらかといえば興味がある以上

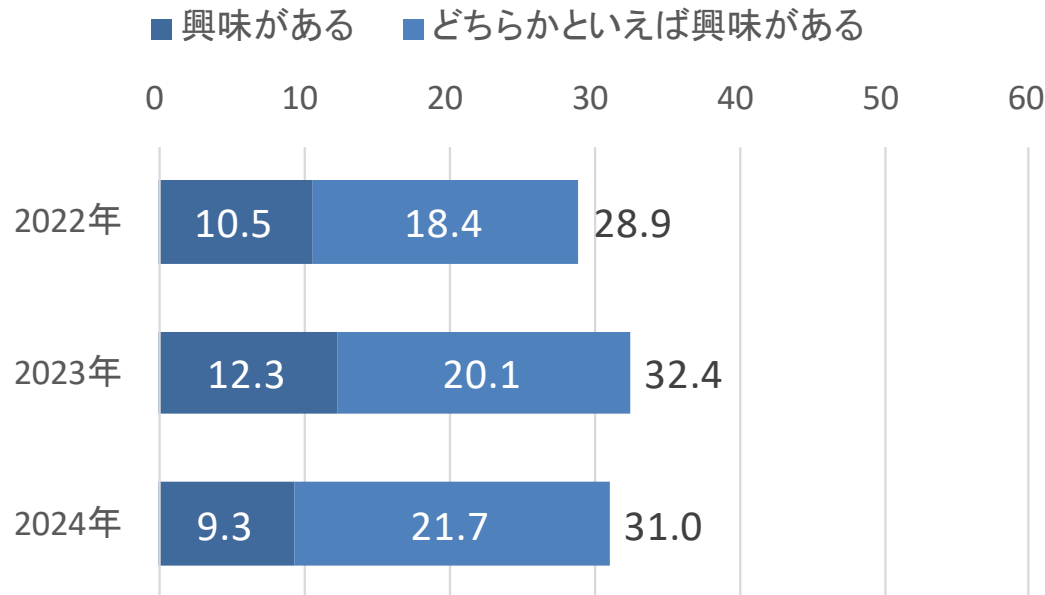


\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

Q.あなたは、以下の職種に就くことに、興味がありますか。

## 日本におけるDSへの興味は、2022年から2023年にかけて 高まったものの、2024年では微減

### データサイエンティストへの興味：日本（時系列）



\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

注)2022年は性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

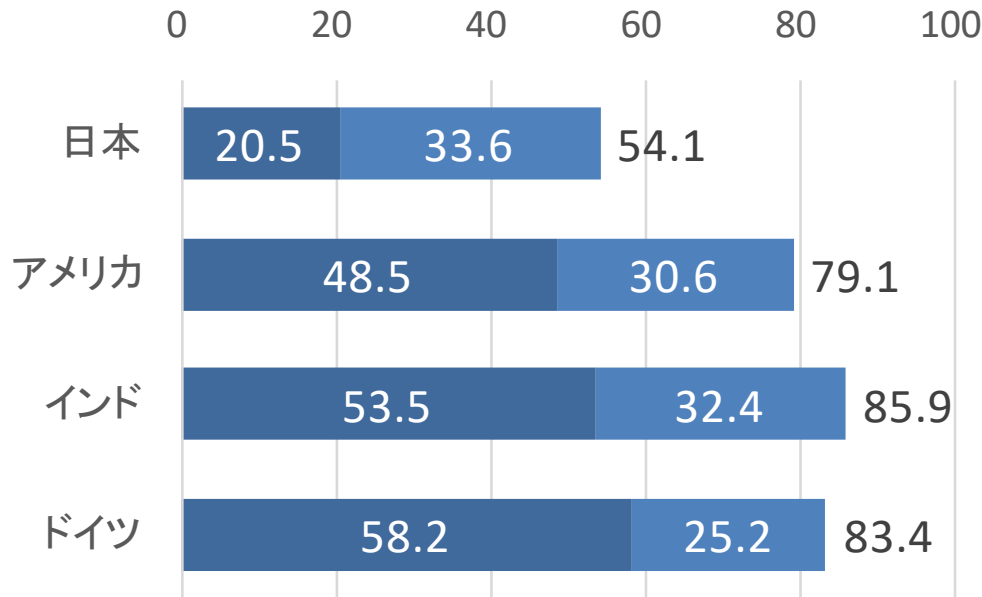
# データサイエンティストという職種の将来性

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に「将来性」を感じますか。

**DSに将来性を感じる割合は、海外の80%に対し日本は54.1%、  
ただしSEよりは将来性を感じている**

## データサイエンティストの将来性

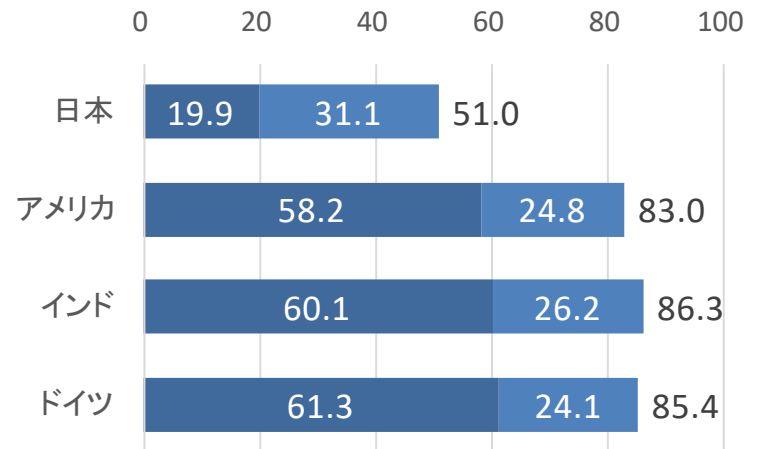
■ 将来性を感じる ■ どちらかという将来性を感じる



\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

## 【参考】SEの将来性

■ 将来性を感じる ■ どちらかという将来性を感じる



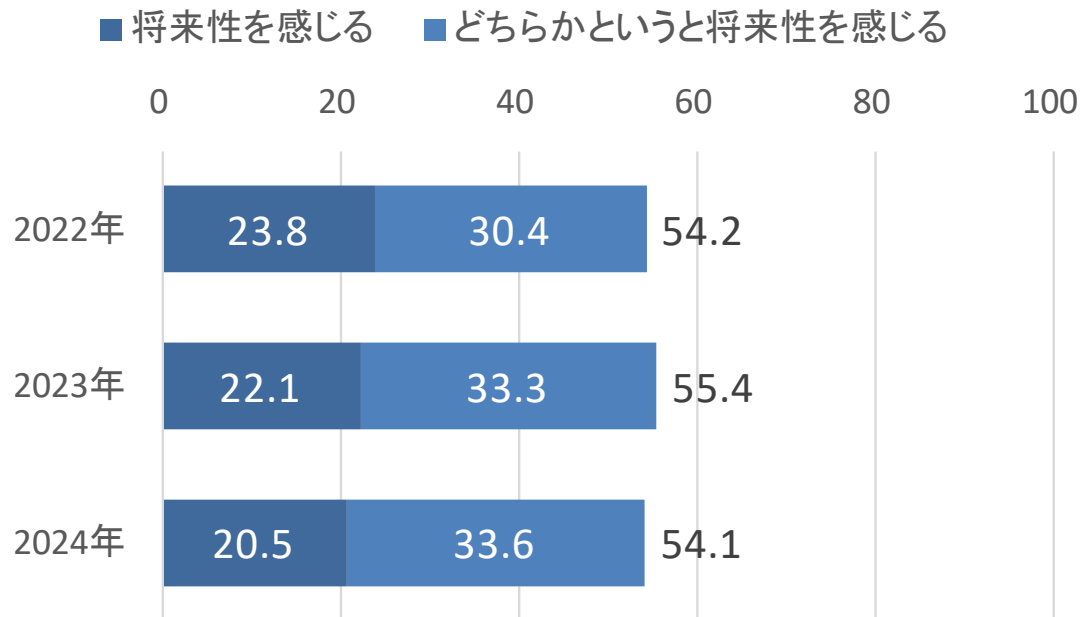
\* SEについて 知っている と回答した人が対象



Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に「将来性」を感じますか。

## 時系列で見ると、日本の場合は55%程度で安定的、 「将来性を感じる」（TOP1）が微減の傾向

データサイエンティストの将来性：日本（時系列）



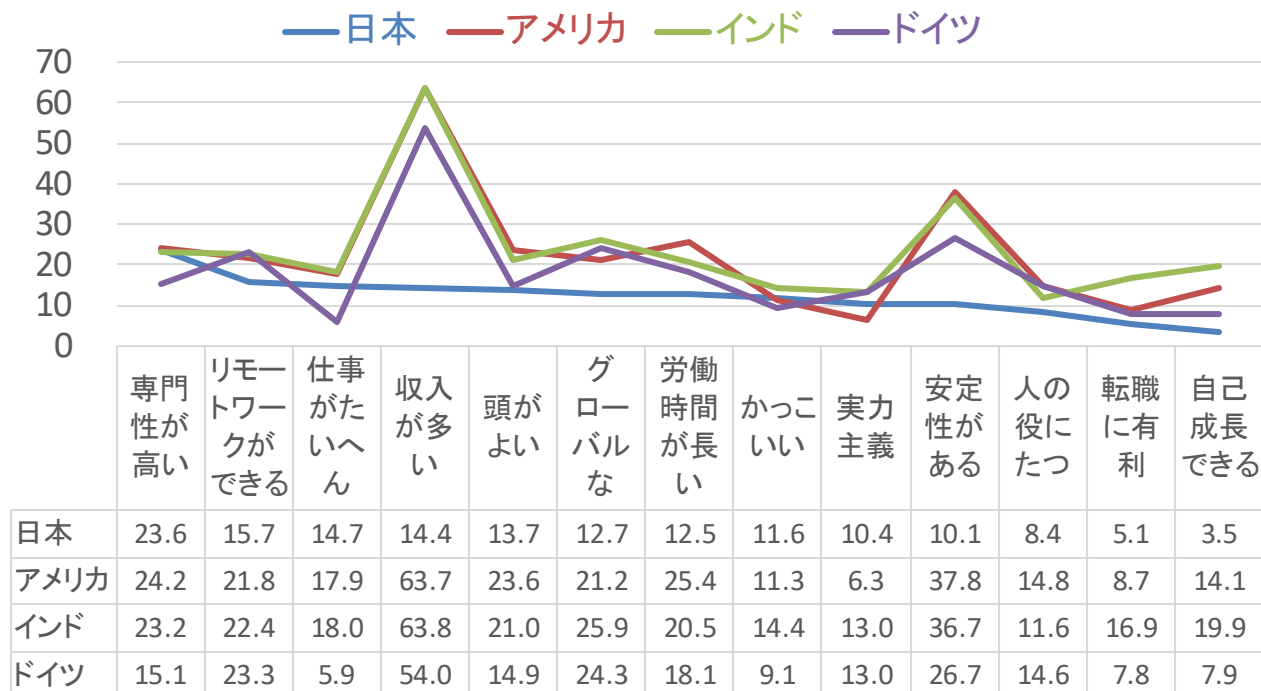
\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

# データサイエンティストのイメージ

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に、どのようなイメージを持っていますか。

**日本は「専門性が高い」イメージが高く、日本以外では「収入が多い」「安定性がある」「自己成長できる」が高い**

## データサイエンティストのイメージ

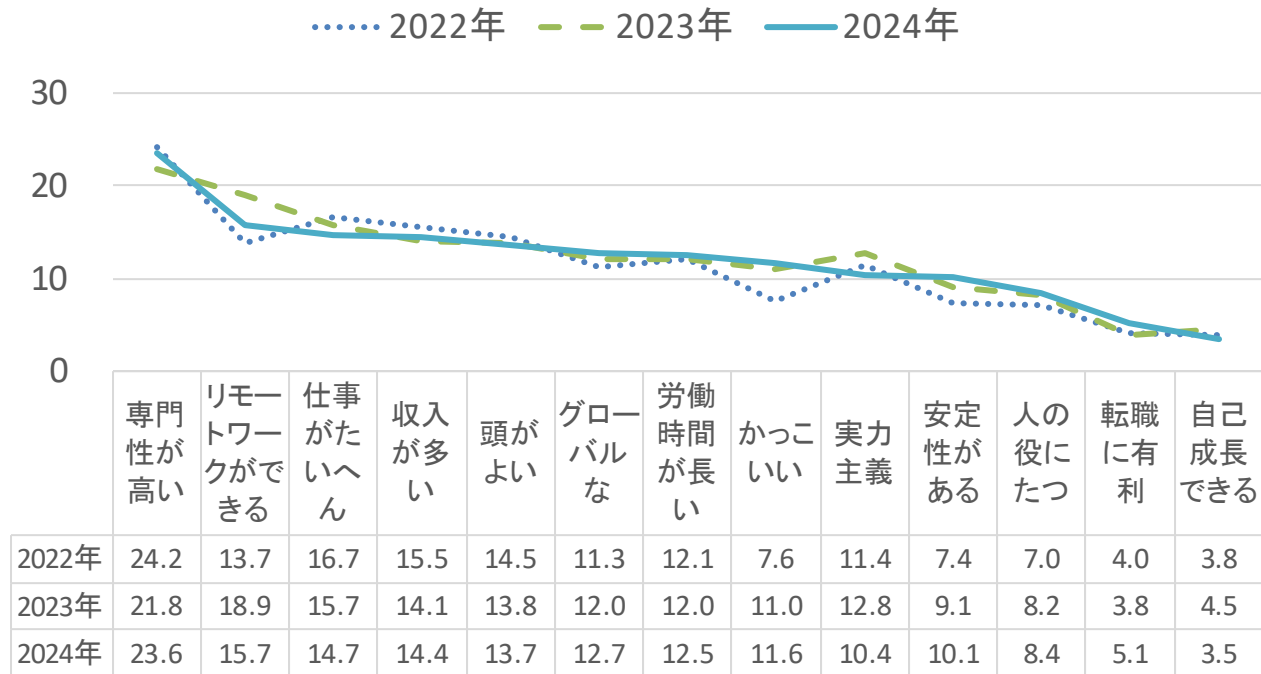


\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

Q.あなたは、以下の職種（データサイエンティスト）に、どのようなイメージを持っていますか。

## 日本におけるイメージの時系列変化をみると安定的、 「専門性がある」イメージは高い水準で推移

### データサイエンティストのイメージ：日本（時系列）



\* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

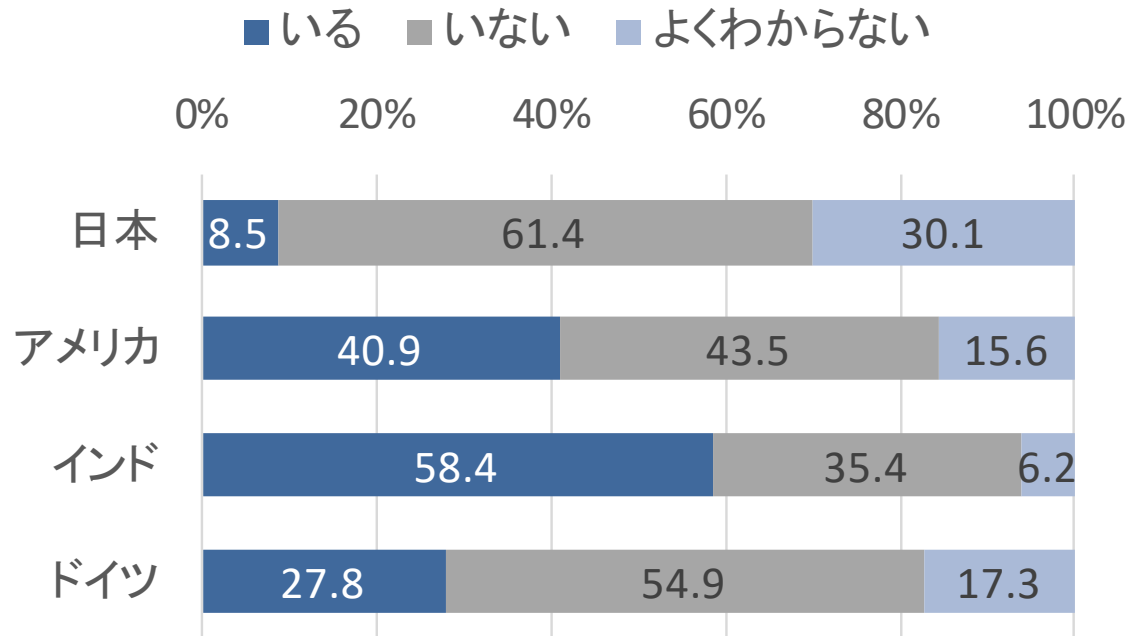
# 企業におけるデータサイエンティスト の位置づけ

# 会社内におけるデータサイエンティストの存在

Q.あなたが勤める会社では、以下の職種の人はいますか。 : データサイエンティスト

**自分が勤務している会社にDSがいると回答した人の割合は、  
日本 : 8.5%、アメリカ : 40.9%、インド : 58.4%**

自分の会社にデータサイエンティストがいる割合

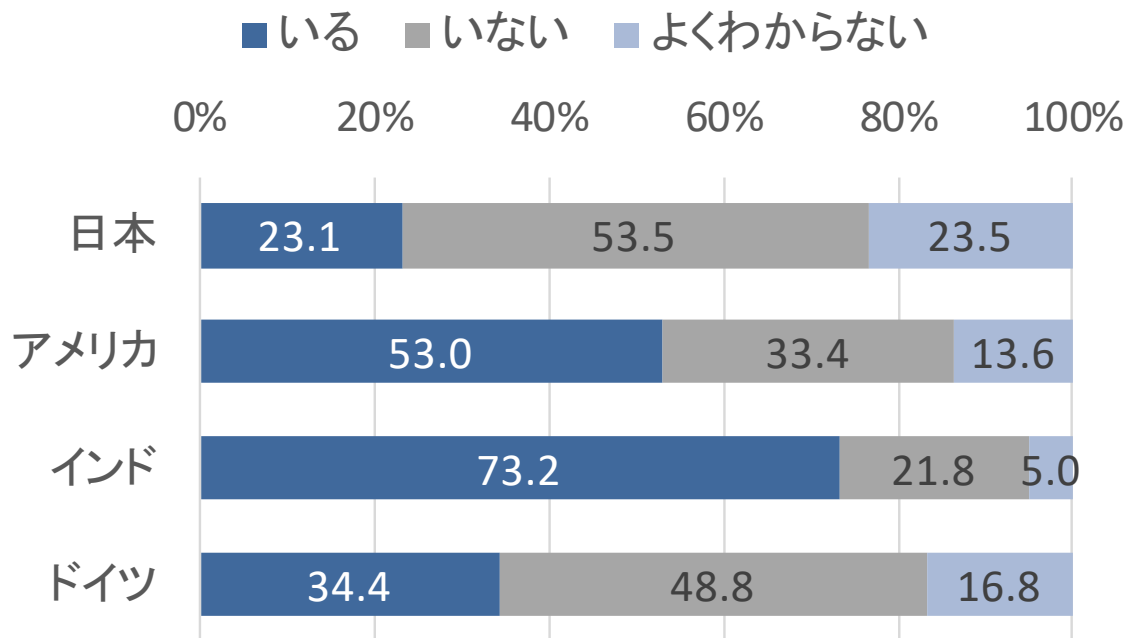


## 【参考】会社内におけるシステムエンジニアの存在

Q.あなたがお勤めの会社では、以下の職種の人はいますか。 : システムエンジニア

**システムエンジニアがいる割合は、  
日本 : 23.1%、アメリカ : 53.0%、インド : 73.2%**

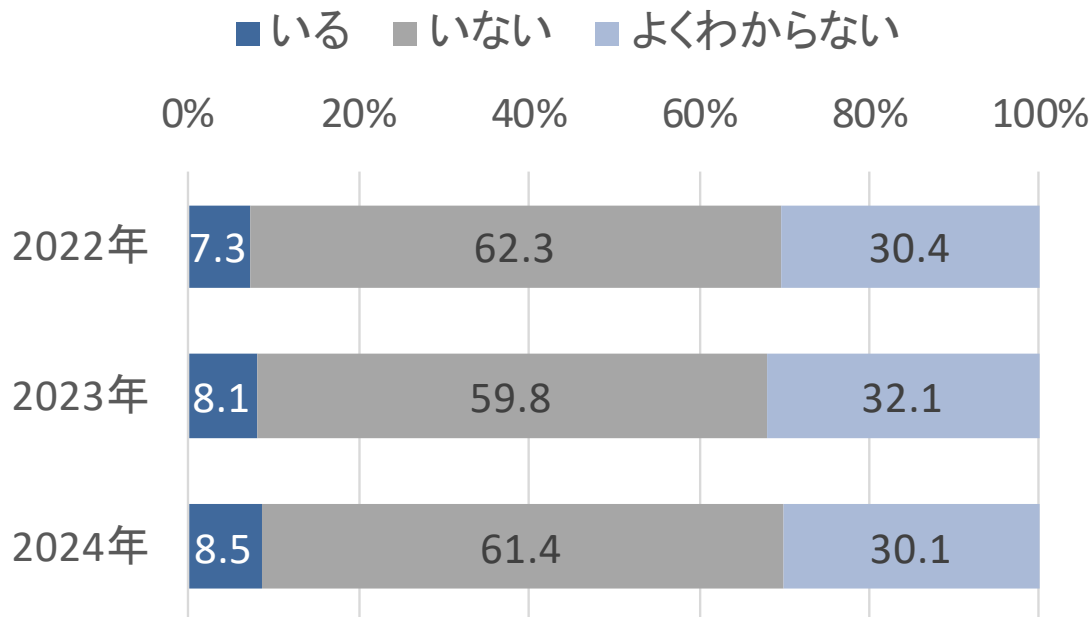
自分の会社にシステムエンジニアがいる割合



Q.あなたが勤める会社では、以下の職種の人はいますか。 : データサイエンティスト

## 日本におけるのDSの存在をみると、 2022年から2024年にかけて微増の傾向

自分の会社にデータサイエンティストがいる割合：日本（時系列）



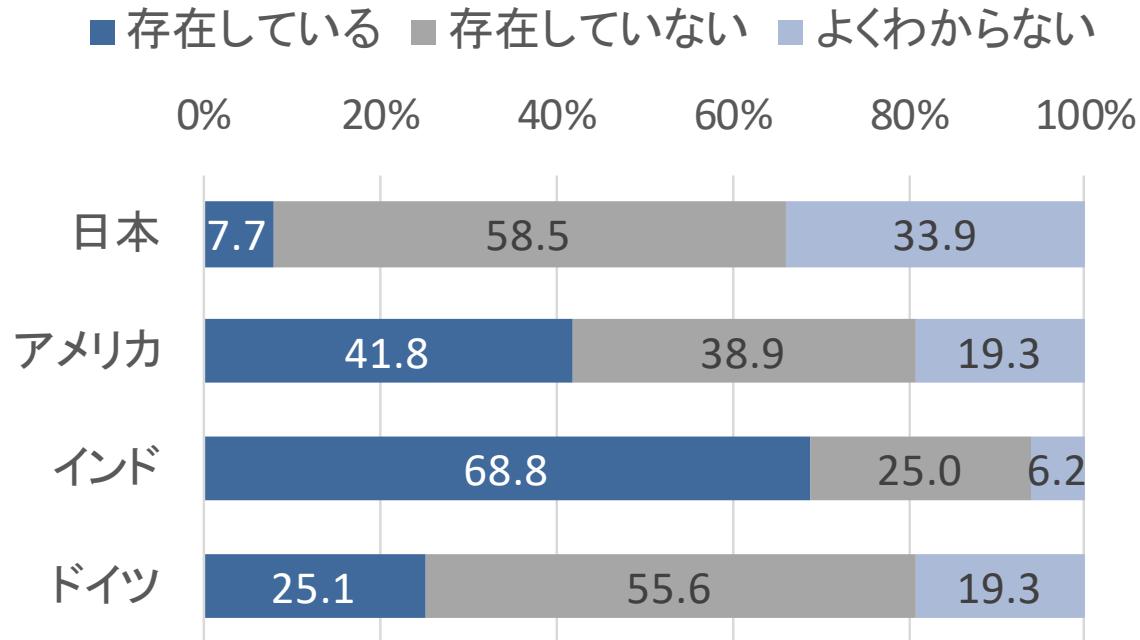
注) 2022年の結果は性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

# データサイエンティスト関連の組織の有無

Q.あなたが勤める会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

**自分が勤務している会社にデータサイエンスの専門部署があると回答した人の割合は、日本：7.7%、アメリカ：41.8%**

自分の会社にデータサイエンス関連の組織があるか



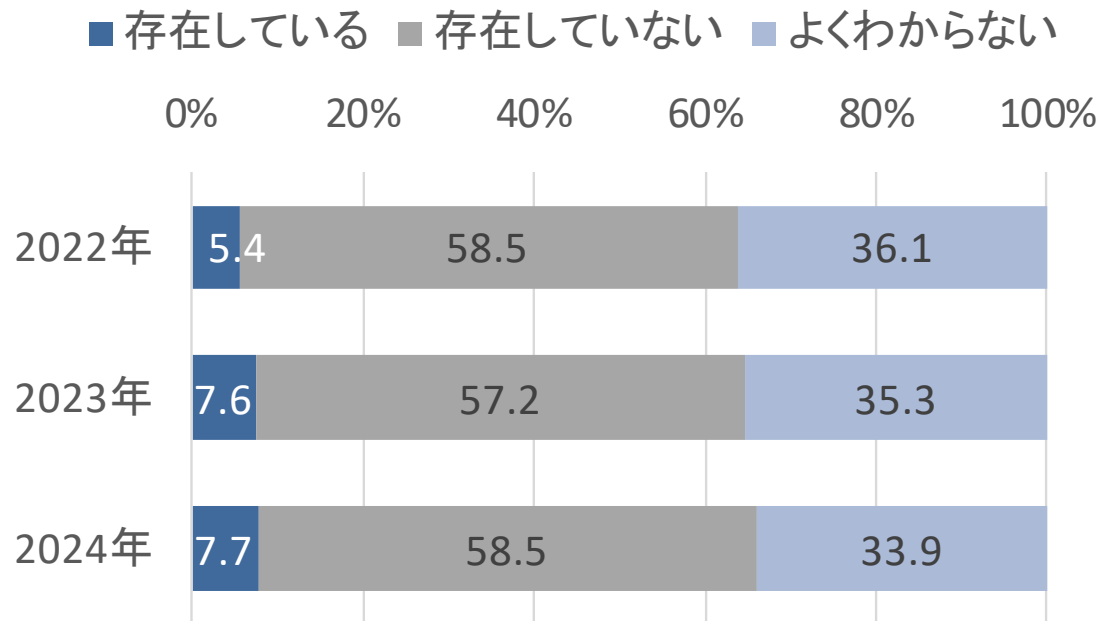


# データサイエンティスト関連の組織の有無

Q.あなたが勤める会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

## 日本におけるデータサイエンスの専門部署がある割合も、 2022年から2024年にかけて微増の傾向

自分の会社にデータサイエンス関連の組織があるか：日本（時系列）

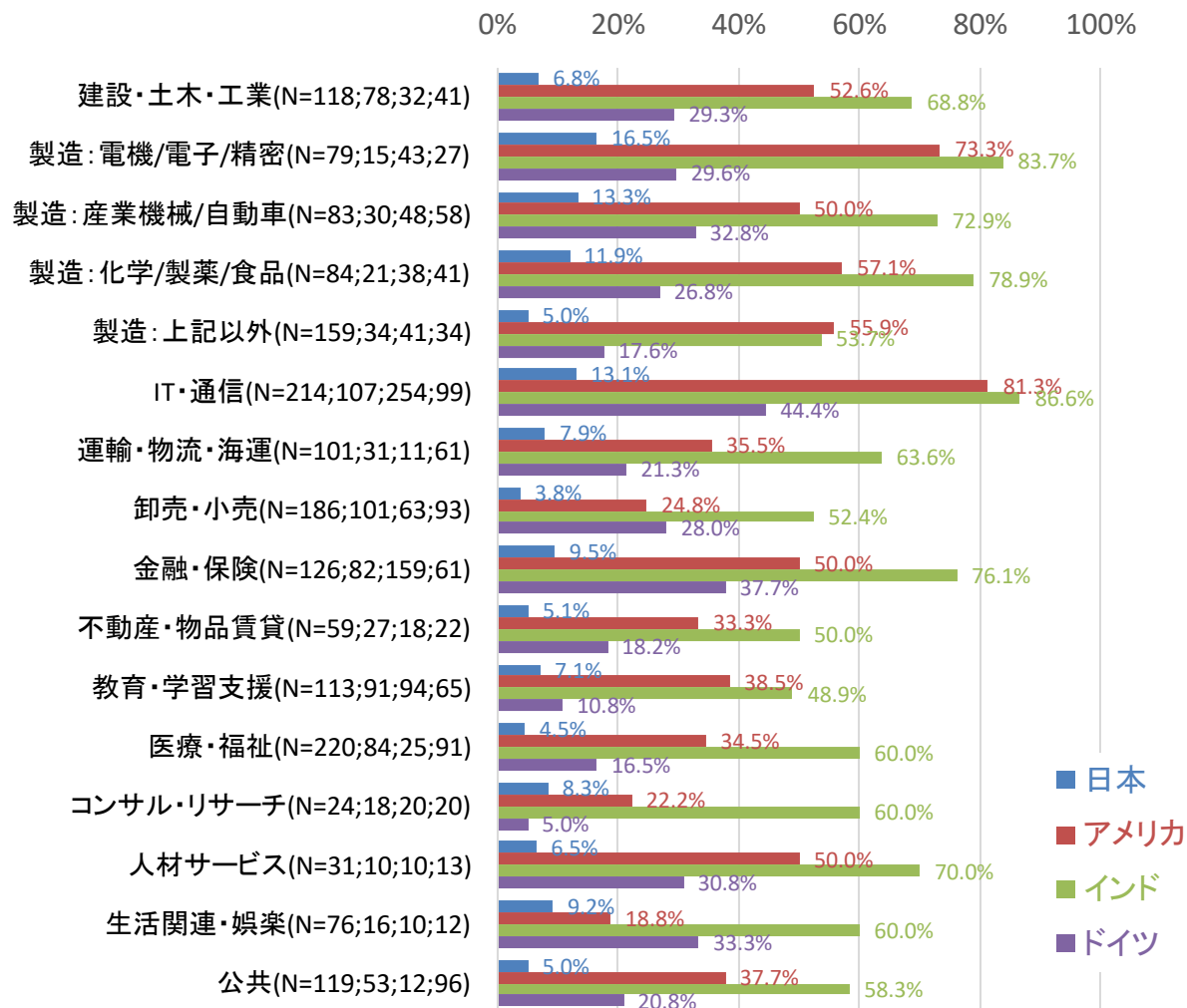


注) 2022年の結果は性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

# データサイエンティスト関連の組織の有無 業種別

Q.あなたが勤める会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

業種別でみると、  
日本では大きな差  
はみられない。  
他国では、アメリカ  
やインドで、  
IT・通信業が多い。  
また、製造業、金融  
業でも多い。

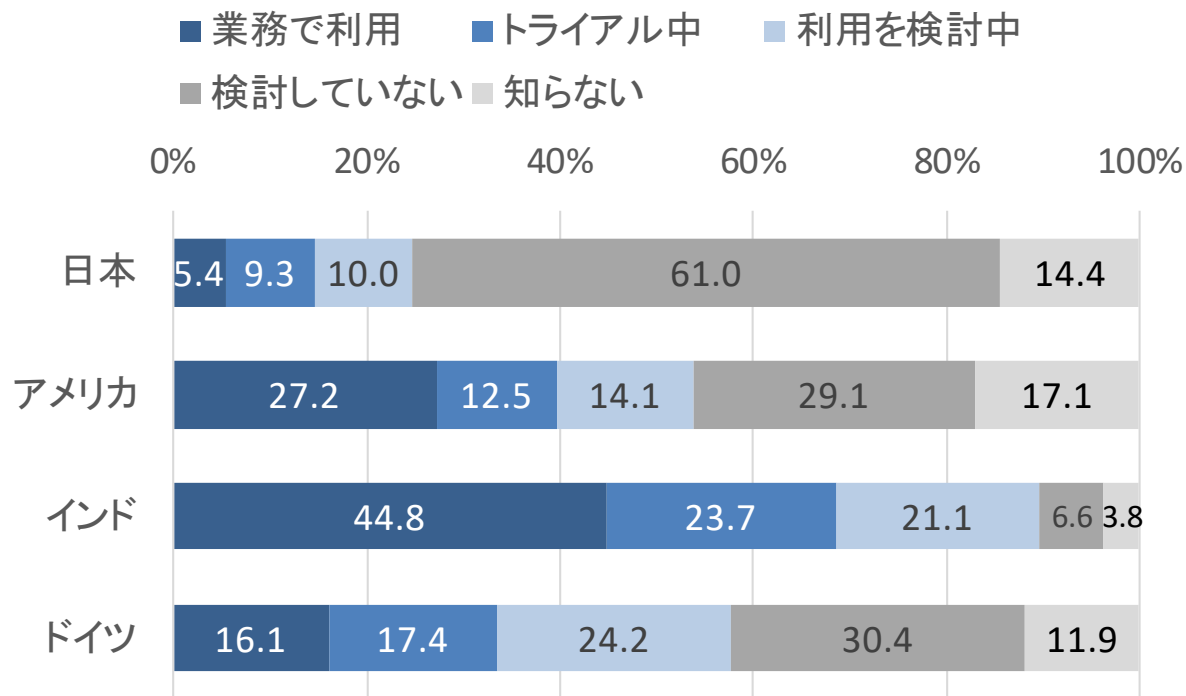


# 職場・業務におけるAIの導入

Q. 「生成AI」のツール・アプリ・ソフトなどをご自身の業務で使っていますか。

**生成AIのツール・アプリの業務での利用率は、日本：5.4%、  
アメリカ：27.2%、インド：44.8%、ドイツ：16.1%**

## 生成AIの業務利用



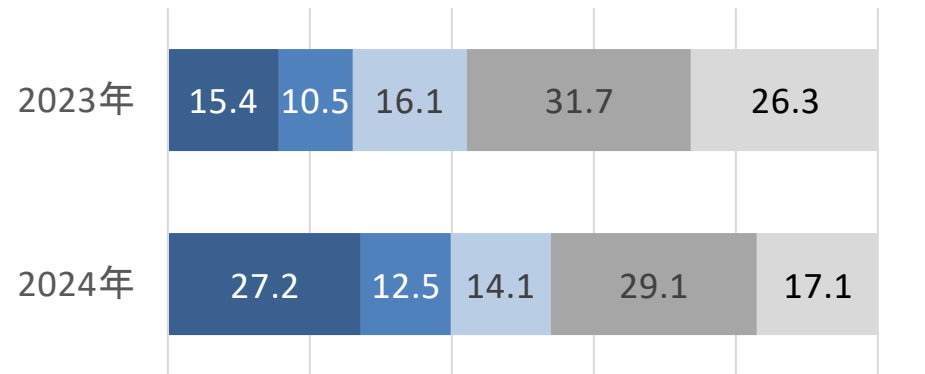
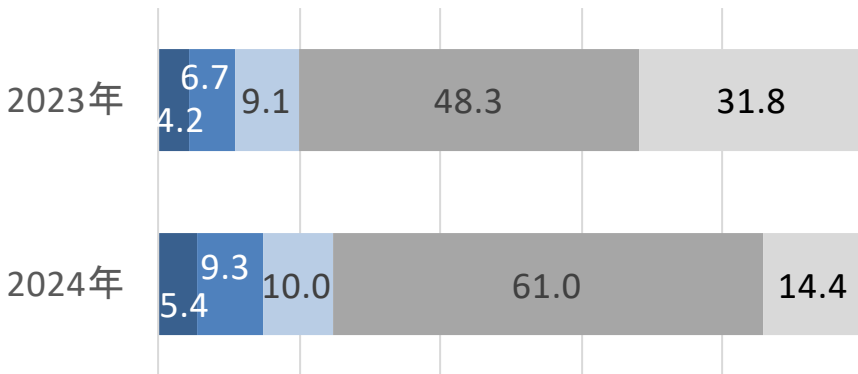
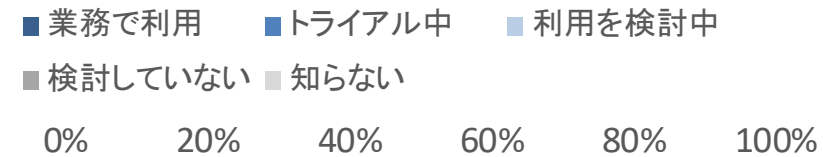
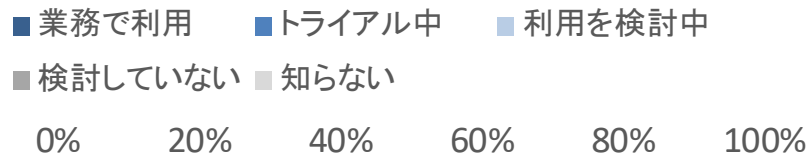
Q. 「生成AI」のツール・アプリ・ソフトなどをご自身の業務で使っていますか。

## 生成AIのツール・アプリの業務での利用率は 日本：4.2%→5.4%に対し、アメリカ：15.4%→27.2%

### 生成AIの業務利用：時系列

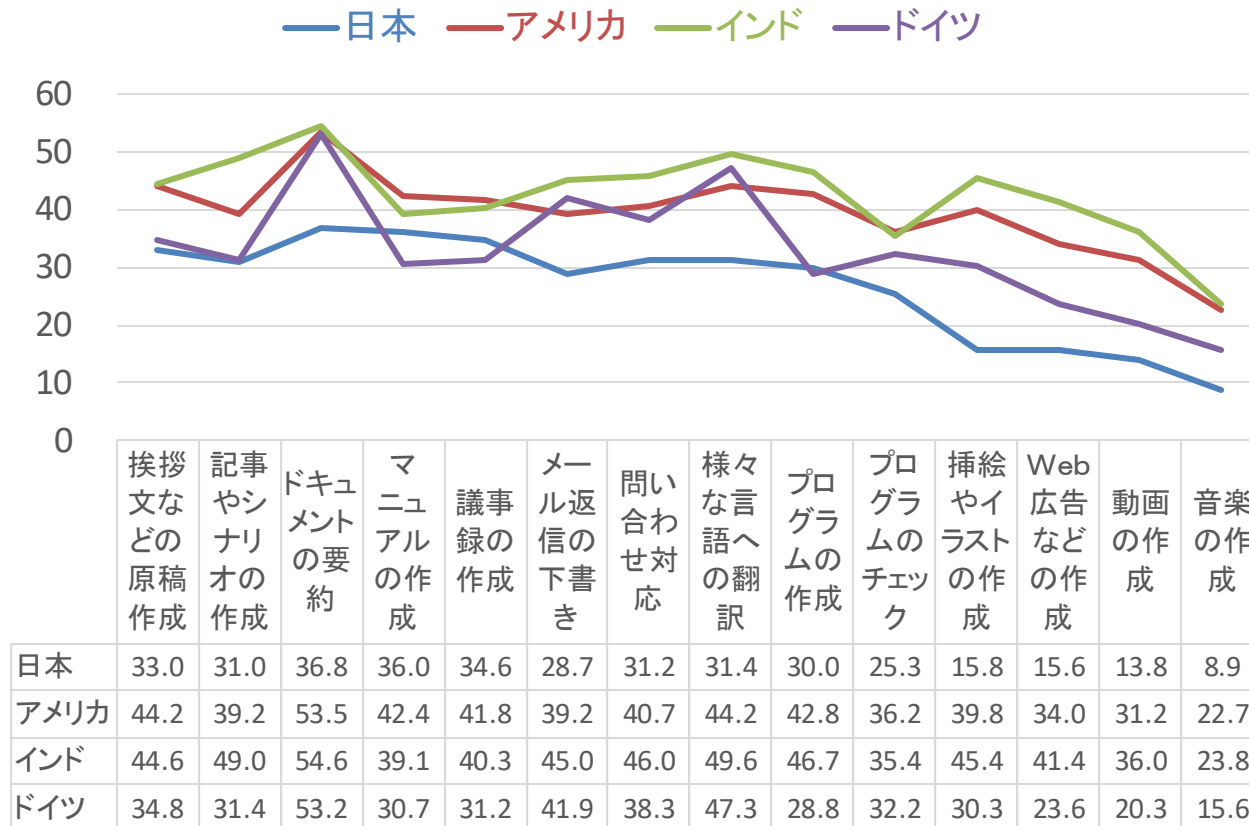
#### 《日本》

#### 《アメリカ》



Q.どのような分野の「生成AI」が業務に導入できると思いますか。

## 生成AIの利用内容をみると、テキストベースの利用は日本も健闘しているが、画像関連での利用で大きな差がある



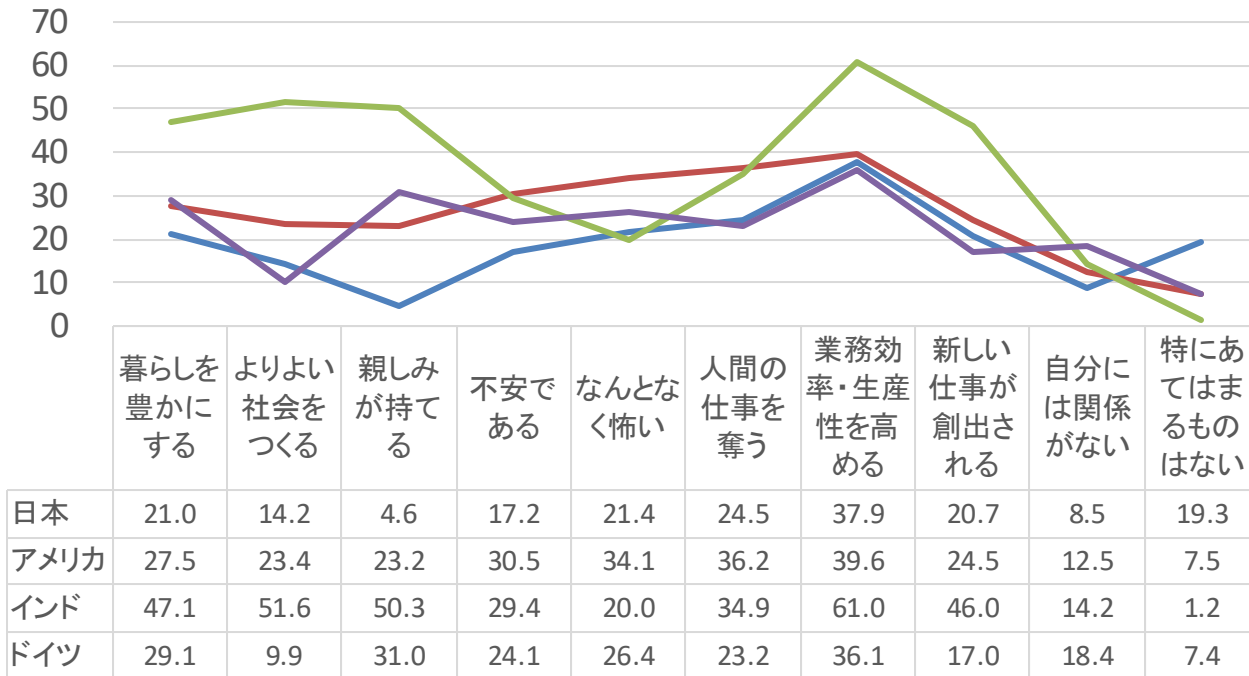
注) 生成AIを利用または利用検討の人が対象

Q. 「AI（人工知能）」のイメージについて、あてはまるものお知らせください。

**AIに対するイメージとしては、インドではポジティブで、アメリカでは「不安」や「怖い」などのネガティブが強い**

## AI（人工知能）のイメージ

—日本 —アメリカ —インド —ドイツ



# データサイエンス関連の資格

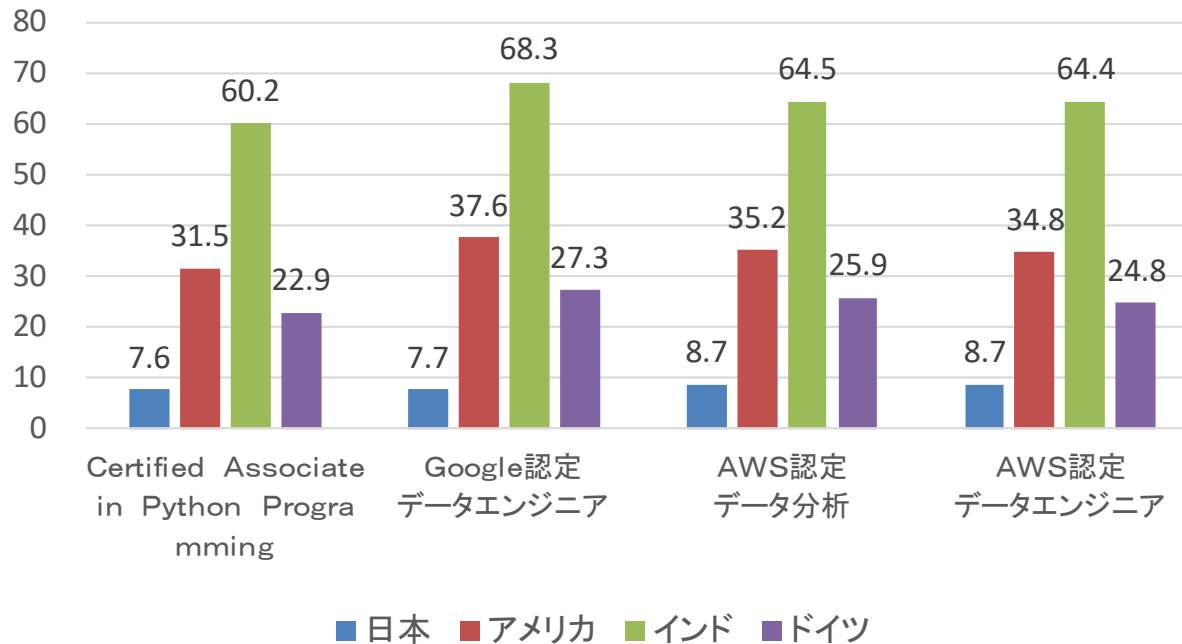


# データサイエンス関連の「国際的な資格」の認知

Q.あなたは以下の「資格」を知っていますか。

## GoogleやAWSのデータサイエンス関連の資格については 海外諸国と比べて、日本ではあまり知られていない

データサイエンス関連の資格の認知（確かに知っている以上）



# 日本におけるデータサイエンスに関する「資格」の認知

Q.データサイエンスに関する以下の「資格」を知っていますか。

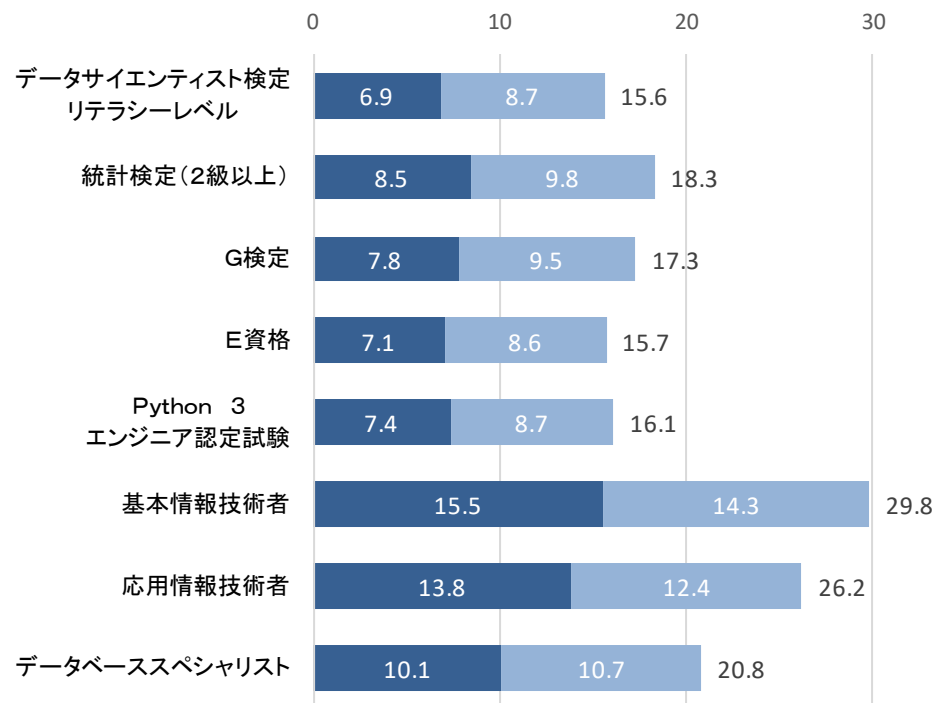
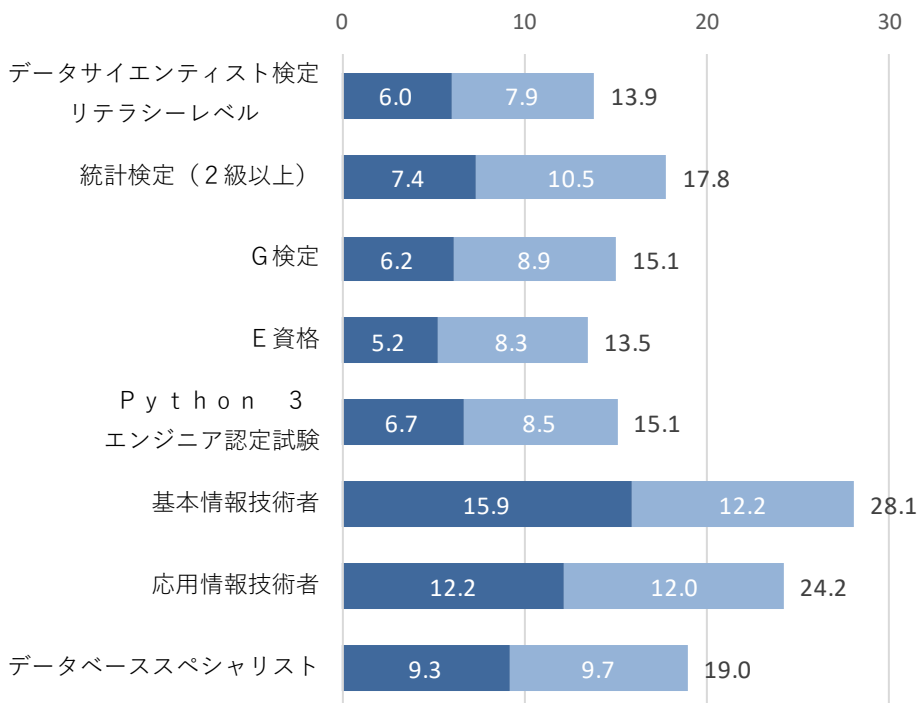
## DS検定リテラシーレベルの認知率は13.9%から15.6%に

2023年

2024年

■ 確かに知っている ■ 聞いたことがある %

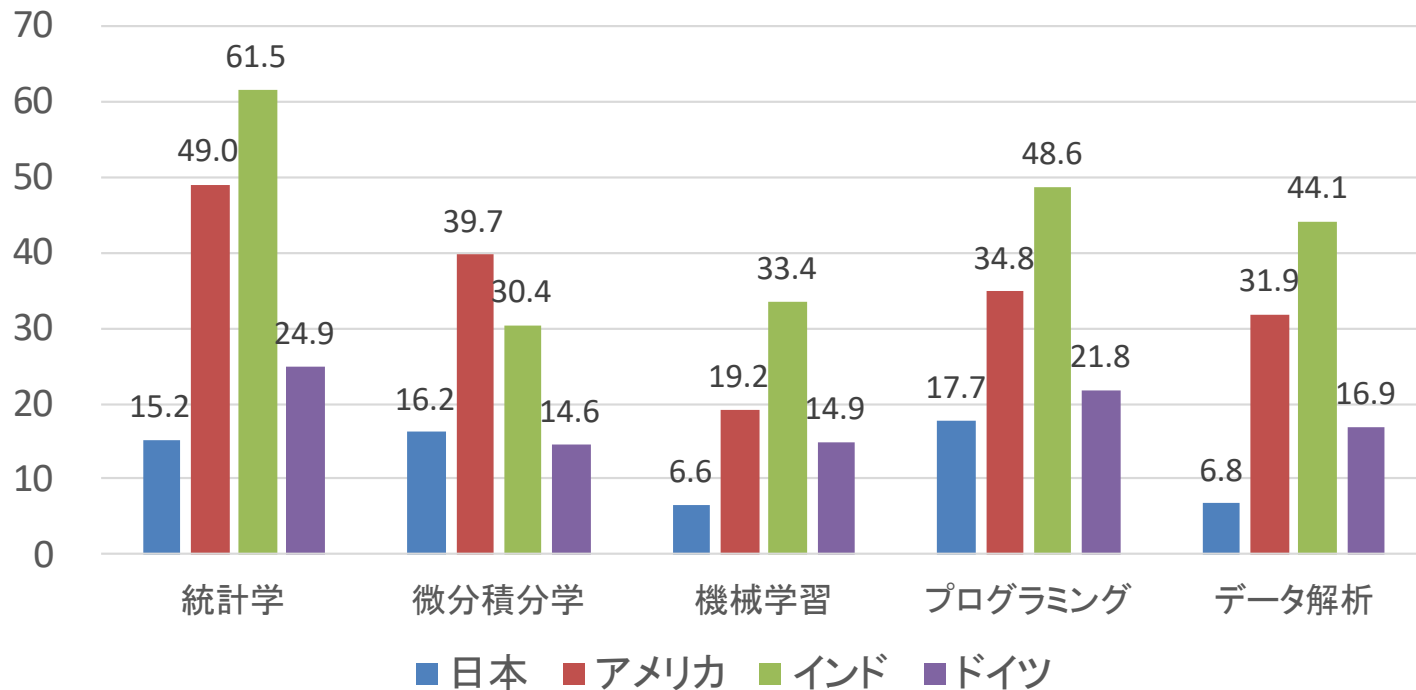
■ 確かに知っている ■ 聞いたことがある %



# データサイエンス関連の学習経験

Q.以下の領域について、大学や高校などで授業を受けたり、ご自身で勉強したことがあるものをお知らせください。

## データサイエンス関連の授業の履修をみると、 アメリカやインドにおける学習経験率が高い 大学などにおけるデータサイエンス関連科目の履修経験



# まとめ 2024年

# まとめ①：データサイエンティストの浸透

DSの浸透は、インド、アメリカ、ドイツ、日本の順

インドやアメリカでは、DSの認知が高く、就労への興味も高い。

日本はドイツと比べても、認知率などで差がある。

「専門部署の存在」や「統計学の履修」などの面でも大きな差。

## データサイエンティストの浸透（国際比較）

	日本	アメリカ	インド	ドイツ
認知	25.3%	63.1%	80.8%	56.7%
就労への興味	31.0%	49.4%	70.1%	39.2%
DSの職種将来性	54.1%	79.2%	85.9%	83.4%
【参考】SEの職種将来性	51.0%	83.0%	86.3%	85.4%
DSの専門部署の存在	7.7%	41.8%	68.8%	25.1%
統計学の履修経験	15.2%	49.0%	61.5%	24.9%

## まとめ②：AIの浸透

日本の生成AIの導入は遅れているが利用方法が高いものも

インド、アメリカなどと比較して生成AIの導入は遅れているが、マニュアル作成などでの活用割合は高く、動画作成で大差。日本人がAIを不安と感じている割合は低い。

### 生成AIの業務への利用

		日本	アメリカ	インド	ドイツ
	生成AIの導入	5.4%	27.2%	44.8%	16.1%
導入内容	マニュアル作成	36.0%	42.4%	39.1%	30.7%
	プログラム	30.0%	42.8%	46.7%	28.8%
	動画作成	13.8%	31.2%	36.0%	20.3%
AIイメージ	暮らしを豊かに	21.0%	27.5%	47.1%	29.1%
	不安である	17.2%	30.5%	29.4%	24.1%

## まとめ③：2023年から2024年にかけての変化 アメリカと比較しても日本のDSやAIの「浸透速度」は遅い

アメリカではDSの専門部署が増え、就労への興味が大幅に拡大、一方、日本では昨年水準と大きな変化はない。生成AIの導入もアメリカと比較すると微増程度。

### 2023年→2024年の変化

	日本	2023年比	アメリカ	2023年比
DSの認知	25.3%	+0.2%	63.1%	-0.5%
DSの就労への興味	31.0%	-1.4%	49.4%	+10.2%
DSの専門部署の存在	7.7%	+0.1%	41.8%	+4.4%
生成AIの導入	5.4%	+1.2%	27.2%	+11.8%
DS検定の認知	15.6%	+1.7%	—	—

## まとめ④

# 日本のデータサイエンスを拡充するために

### (1) データサイエンティストの「認知率」を高める

- ・ここ1年間でもDSの認知率は横ばい
- ・海外と比べて若年層でも認知率は低い
- ・認知者あたりではSEよりもDSに将来性を感じている

### (2) 「データサイエンスの民主化」を進める

- ・日本では専門職のイメージが相対的に高い
- ・大学における統計学やデータ解析の履修が低い

### (3) 生成AIをきっかけにデータサイエンスの重要性を伝える

- ・ここ1年間の生成AIの導入スピードでアメリカと差が拡大
- ・マニュアルなどのテキストベースでの利用は高い
- ・海外諸国と比べて日本におけるAI導入への不安は少ない